

# 「こおりやまの米」通信

編集：郡山市  
 JA福島さくら郡山地区本部（TEL. 921-0533）  
 NOSAI福島郡山田村支所（TEL. 933-3307）  
 県中農林事務所農業振興普及部（TEL. 935-1310）  
 発行：郡山市農作物生産対策協議会  
 （郡山市園芸畜産振興課 TEL.924-3761）



郡山市  
 イメージキャラクター  
 「がくとくん」

## Vol. 3 田植～本田初期管理

こおりやまの米通信

検索

\* 過去の記事は郡山市ホームページから見る事が出来ます。

### 1 田植え ～健苗を風のない暖かい日に移植しましょう～

低温時や強風時の移植は植え傷みが生じるので、移植は天気の良い日に行いましょう。

○植え付け本数は1株当り3～4本。

【植え付け本数が多いと・・・】

- ・肥料切れが早くなる。
- ・茎が細くなる。
- ・酸素不足で根も細くなる。

○苗が転ばない程度に浅く植える。

【深植えすると・・・】

- ・下位分げつが発生しにくく、生育が遅れる。

○健苗移植に努める。

- ・適切な温度管理で健苗を育成しましょう。
- ・病害の防除が必要な場合、農薬の使用回数のほか、成分ごとの使用回数にも注意して防除する。

・弁当肥の施用

葉色が極端に淡い場合は、活着を良くするため、田植え2日前頃に1箱当りチッソ成分1g程度を弁当肥として追肥する。

○補植

- ・欠株が連続している所だけ補植する。
- ・いもち病の発生源になるので、補植が終わったらすみやかに置き苗を処分する。
- ・補植は除草剤の散布前に終了させる。



### 2 本田初期の水管理 ～初期生育の確保のために～

田植え後はすみやかに深水管理する。

○活着までの3～5日は苗が水没しない程度の深水管理とする。

○活着後はすみやかに浅水管理にする。

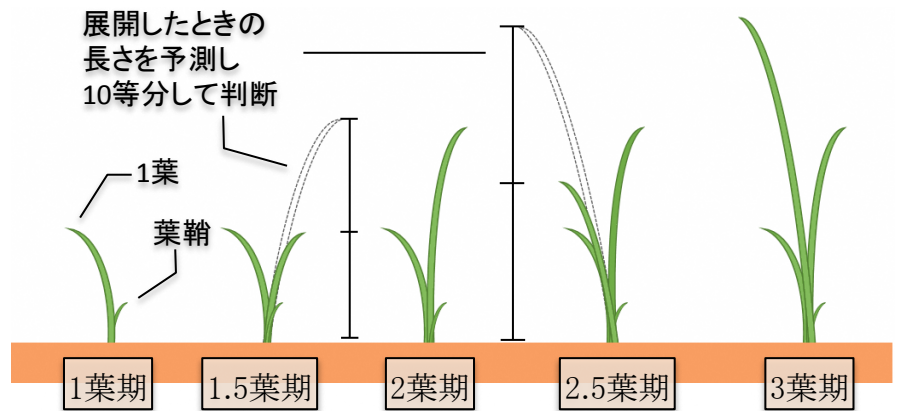
水深は3cm程度とし分げつを促進

○除草剤使用直後の落水は行わない。

○新しい根が3～4cmになり、引き抜くと抵抗を感じるようになった日が活着日。

### 3 雑草防除 ～除草剤散布は遅れずに～

ほ場内で最も生育が進んでいる雑草の葉齢を基準に散布する。散布適期を逃さぬよう注意！！



○初中期一発剤使用上の注意

**除草剤散布後7日間は落水しない。**

- ・水口・水尻はしっかり止水する。
- ・畦畔の漏水防止をあらかじめしておく。
- ・散布時は十分な水深(5cm以上)にすると土の表面に均一な処理層が形成されるとともに、雑草が水面下にある茎葉からも農薬成分を吸収するため、十分な除草効果が得られる。

○雑草が残ったら・・・残った雑草の種類によって除草剤を選択し、適期に追加防除する。

**ヒエだけが残った場合**

⇒ヒエクリーン1キロ粒剤：移植後15日～ノビエ4葉期（但し、収穫45日前まで）：1kg/10a湛水散布

**ヒエ以外の雑草も残った場合**

⇒ワイドショット1キロ粒剤：移植後15日～ノビエ4葉期（但し、収穫45日前まで）：1kg/10a湛水散布

**広葉雑草だけが残った場合**

⇒バサグラン粒剤(ナトリウム塩)：移植後15～55日（但し、収穫60日前まで）：3～4kg/10a落水散布、又はごく浅く湛水して散布

【注意】処理後2日以内に降雨があると効果が不十分になるおそれがあるので晴天の持続する時を選んで使用する。

## 4 藻類・表層はく離対策

～移植後高温が続くと発生が増えます～

多発すると水温上昇を妨げる、除草剤の処理層が破壊されるなどの害があります。また、直播栽培では苗立不良の原因ともなります。

### 【対策1】水の入・排水

藻類→ほ場の水を入れ替える。

表層はく離→田面水を排出し、2～3日後に土壌が落ち着いてから水を導入する。

### 【対策2】除草剤

水の入替えが困難な場合はモゲトン粒剤(2kg/10a)を湛水散布する。

### 【対策3】天候に応じ様子を見る

表層はく離は梅雨に入ると雨に打たれ自然に消滅します。また、藻類は水温が30℃を超えると死滅します。



## 飼料用米の取組みにご協力ください！

米価下落を防ぐため、需要に応じた米づくりを続けることが重要です。引き続き、「水田活用の直接支払交付金」等を最大限に活用し、飼料用米などの新規需要米の取組みにご協力をお願いします。



農機具で一般道を通行する際には、他の車両の妨げにならないよう農機具の泥を良く落としましょう。

## 野焼きは原則禁止です！

空気が乾燥し、火災が発生しやすい気象条件となっていますので、火災予防に努めてください。



## 5 ばか苗病の蔓延防止

種子消毒以外で、ばか苗病に登録のある農薬はありません。

- 移植前によく確認して、発病した苗はほ場に持ち込まない。
- 移植後もよく観察し、移植後に病徴(葉色が淡く徒長)があれば根を含め株ごと抜きとる。
- 抜き取り後は、ほ場外で埋設処分する。
- ばか苗病の胞子は広範囲に飛散し、近隣水田への感染源となるので、観察・抜き取りを徹底する。

4/1～5/31

## 春の農作業安全運動展開中！

平成29年は福島県内で9件(うち郡山市内で2件)の農作業死亡事故が発生しました。このうち7件が繁忙期(4～5月、9～10月)に集中して起きています。

- 農機具で公道を走行する際は「低速車マーク」や「反射板」を取り付けましょう。また、運転前に反射板に泥汚れなどがないかチェックを忘れずに。
- 救命効果の高い安全キャブ・フレームを装備したトラクターを利用しましょう。また、運転中はシートベルトを着用しましょう。
- 道路走行時には必ずブレーキ連結を確認しましょう。ペダル操作を誤らないよう、長靴の泥を良く落として運転しましょう。
- 低速車マーク

追突事故防止のため、低速車マークを活用し後続車の視認性を高めましょう。



## 農薬のボトルなどの適正処理のおねがい

農薬のボトル等の農業用使用済プラスチック類は「産業廃棄物」となるため、ごみ集積場やクリーンセンターへの搬入はできません。

J A福島さくらでは6月に回収処理代行を実施しておりますので、詳しくはお近くのJ A支店へお問い合わせください。